



つながりっもいっね

発行日

令和2年12月15日

No.1

発行：幼保小連携推進
協議会代表者会

コロナ禍の幼保小連携について アンケート集計結果

手稲区の皆様、コロナで例年通りの顔を見ながらの『つながり』ができなくなっている今年度です。他校や他園ではどのように対応しているのか情報がない、是非知りたい、との声が届けられています。今回、アンケートにそれぞれの工夫をたくさん寄せていただきましたので、集計結果をお届けします。ご協力ありがとうございました。

1、幼稚園、保育園、認定こども園の先生に伺います。

今まで行っていた幼保小の交流（学校探検、お祭り、運動会、発表会の見学等）ができない状況の中、就学に向けて工夫していることはどんなことですか？

<イメージできるように>

就学小学校マップの作成、同じ就学先の友達との関わり、小学校の兄弟から話を聞く、散歩がてら小学校の建物やグラウンドを見学する。園児から不安に思っていることを聞く。

<生活面>

身の回りのことを自分でできるように、時間を意識して行動できるように、自分の考えを発表する機会を増やす、自分たちで計画・協力して物事を進める経験、話を聞く態度、異年齢活動

<学習面>

鉛筆との触れ合い、椅子に座る活動、興味の幅が広がるような遊びを取り入れる。

2、小学校の先生に伺います。

コロナ禍の1年生の育ちから、現在心配していることはどんなことですか？

<人との関わり>

グループ交流ができず個別対応になりがちなので相手意識がもてない。

友達との触れ合いができない、手をつなぐことへの抵抗感。異年齢交流ができず、他者意識が育ちづらい。休校による母子分離不安や赤ちゃん返り、マスク着用による表情の乏しさ、相手の表情から気持ちを読み取る力が育たない。

休校でスタートが遅れたが、家庭の協力を得ながら順調に育っている。

<行事などの活動経験>

給食当番活動などが行えないため、自主性や協調性が育ちづらい。

運動会や発表会などの行事を通して育つ仲間意識、協調性、社会性の成長が低迷。

全校集会が行えないため、緊張感をもって座る、話を聞く、入退場するなどの態度が身に付きづらい。

特別支援学級では、交流学級での学習が少なく、集団の意識をあまり育てることができない。

交通安全教室未実施のため、安全意識が低い児童がいるため、日頃の安全指導を繰り返す。

長期休校の影響で1年生の育ちが2か月程度遅れている。

手洗いうがいなどの感染症対策が身につけている。

臨時休校明けは学習面、生活面、精神面の全てに不安があったが、現在は例年に比べて遅れているといった印象はない。子どもはちゃんと育つのだなと感じる。

<学習面>

授業時数にゆとりがないため、各教科の時間がゆっくりとれない。

<保護者との連携>

心配な児童へのサポートの在り方について共有できない。

保護者同士の交流ができないため、考えの共有ができない。



3、幼保小両方の先生に伺います。

3 密にならないために日々の保育、授業で工夫していることはどんなことですか？

<生活の工夫>

換気、アルコール消毒、サーキュレーターの利用、下校後の消毒。
毎日の検温、マスク着用、食事時は会話禁止でクラシックのBGMを流す、給食当番の禁止。
手洗い場を学級ごとに割り当てる、水道前の床にしるしをつけて、間隔を空けて並ぶ。
特別教室の利用で、学級を半分にする、机を市松模様に並べる。
登下校は時差で、玄関の混雑を緩和、休み時間は利用場所を割り当てる。
講師を招いての運動遊びは、ホールでなく、園庭や近隣の公園を活用。
市立図書館と合わせて絵本貸し出しを中止。(現在は開始)
食事時やベビーカーは、ついたてを利用、向かい合って座らない、密にならない座り方の工夫。
歯磨きは間隔を取って座って行い、こまめに周囲を消毒。
昼寝はホールと保育室を使用し、スペースを広くとる。
分かる範囲で距離を保つことの大切さを伝える。

<遊びの工夫>

人数の集中を避けるために…戸外での自由遊び、選択制活動、活動場所を時間帯で分ける。
玩具の共有を少なくする、散歩や公園はなるべく人のいない場所を選ぶ。
絵本の読み聞かせでは子ども同士の間隔を空ける。
歌はホールで換気しながら、子ども同士が離れてできるゲームを考える。

<行事の工夫>

運動会は3部制など回数を増やすことで参加人数を減らす。行事の精選や時間短縮。
誕生会是对面を避けて座る、間隔を空ける、学級ごとに行う。
バス遠足は徒歩遠足ごっこに振替。

<保護者>

保育はどうしても密になるので、職員や保護者が手洗い、換気、消毒を徹底する。また、保護者への周知、理解、信頼関係で成り立っている。

<学習>

黒板中心の全体交流を主にし、話し合い活動は必要最低限にする。
特別支援学級ではソーシャルディスタンスポーズを作って楽しく意識する。
体育、理科、家庭科など密になりやすい単元は縮小したり、学級を2つに分けたりする。
リコーダーや鍵盤ハーモニカは数名ずつの演奏、屋上やピロティを活用する。楽器にたまる水分の処理方法にケアが必要。
音楽は歌でなく手拍子や振付のある曲を選曲する。インタビュー活動は行わない。
パソコンルームはついたてを活用したり、一つ置きに座ったりする。
カリキュラムの見直し。(授業でしかできないこと、家庭でもできることの区別をつける)
*休憩時間に密になる場面では言葉掛けするが、1年生は実態として難しい。
*子ども同士くっついてしまいがちな点や敷地の都合で現実的には難しい。

今後の幼保小の連携においてコロナ禍でもできる(やってみたい)アイデアはどんなことですか？

<他校との連携>

ウェブを利用した子どもたちの対面交流。(オンライン、ビデオレター、動画、手紙、テレビ電話の活用)
戸外でゲームなどの交流、少人数、短時間での分散交流。
職員間の情報交流や職員の学校訪問。
コロナ禍のスタートカリキュラム作成。

<幼保小連携推進協議会>

グループごとに別の部屋で実施、オンライン会議、紙面交流、作品交流、動画交流。
互いの職種を生かした講演会や座談会、就学を迎える保護者に向けた小学校の先生からの座談会。

幼保小連絡会は一堂に会することができなくなってしまいました。そこで、アンケートにたくさん寄せられていた動画というアイデアをもとに、本会代表者、手稲鉄北小学校の高安校長先生が、学校紹介DVDを作成してくださいました。

子どもたちと一緒にDVDを観てね！僕も出演しているよ！

